

# 市長退任挨拶

令和二年六月二十六日

市民並びに議員各位におかれましては、今日までの四期十六年間にわたりまして、格別のご理解・ご協力を賜りましたことに、衷心より、お礼を申し上げます。

私は、平成十六年の七月に市長に就任いたしました。

当時、本市最大の課題でありました行財政改革に真正面から取り組み、築き上げた自立・持続可能な財政基盤をもとに、「魅力と活気にあふれ、誰もが心豊かに、安心して暮らせるまちづくり」に邁進してまいりました。

また、機能強化が格段に進んだ<sup>さかいこう</sup>境港・米子鬼太郎空港・境漁港の「三つの港」や、リニューアルが進み、「夜の賑わい」も生み出した水木しげるロードなど、こうした基盤や資源を中海・宍道湖・大山圏域共有の財産として、しっかりと利活用し、圏域での一体的な発展を目指してきたところであります。

この十六年間の一つひとつの積み重ねにより、本市の将来都市像としております砂漠の中のオアシスのように、人やモノ、情報が盛んに行き交い、その中で、人々が安らぎや潤いを感じながら安心して暮らせる「環日本海オアシス都市」の実現に向けて、着実に歩みを進めることができたと思っております。

そして、次なる境港市の飛躍に向け、道筋もつけられたものと考えております。

これもひとえに、長年にわたる市民の皆様方のご支援、そして関係者の皆様方のご尽力の賜物であり、重ねて、深く感謝申し上げる次第であります。

私は、こうしたまちづくりを進めてまいりましたが、在任中、何よりも大切にしてきた考え、それは、「協働のまちづくり」であります。

「市民や市民活動団体、事業者、そして行政が共にまちづくりについて考え、対等のパートナーとして、果たすべき役割を分担するとともに、それぞれの特性を活かしながら様々な形で連携し、よりよいまちを築き上げていく。」

就任以来、この考えをまちづくりの原点として市政運営の柱に据えまして、訴えてまいりました。

そして、今日では、この考えは着実に根を張り、市内の随所に取り組みが生まれてきているところであります。このことは、本当に素晴らしいことであると思っております。

「自分たちの住むまちは、自分たちで考え、自分たちで創り上げていく。」この「協働のまちづくり」の気風が一層あふれるまちになることを切に願っているところであります。

結びに、新しい市長のもとにおかれましても、常に市民の立場や視点に立った公平・公正な市政運営が行われるとともに、本市そしてこの圏域が新型コロナウイルス感染症の影響からいち早く立ち直り、再び国内外からの多くの人々で賑わい、さらなる発展を遂げますことを心から祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。

本当に十六年間、ありがとうございました。